

牛久：学校周辺に見る自然

第81号 ひたち野西近隣公園

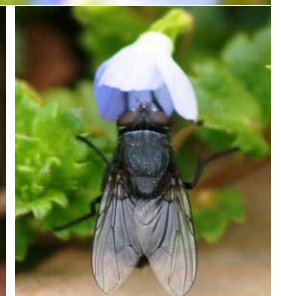
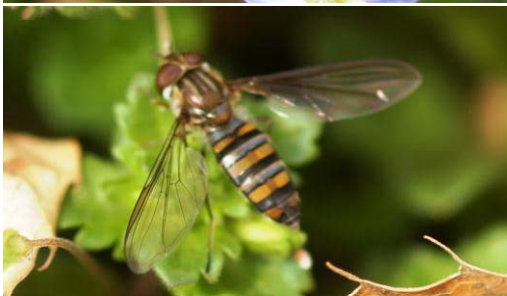
2012年3月29日発行

＜ 春が来た！ ～2. 動き出す、成虫越冬の虫たち ＞

春です！ 成虫で冬越ししていた虫たちも、早春の花たちとともに暖かさに隠れがから出てきて活動を始めました。まずは、おなじみの水辺公園で見られたものから紹介していきましょう。

水辺公園では、オオイヌノフグリが青いじゅうたんのようです。花の蜜や花粉を求めて、たくさんのミツバチやハナアブが訪れていました。

ハナアブやハエは、樹皮のすき間などにもぐりこんでいて、冬でも暖かくなると出てきて花の蜜をなめたりします。ミツバチは巣の中で、たくわえた蜜や花粉を食べながら、たくさんでかたまって、温めあいながら冬を越すそうです。ただしセイヨウミツバチの場合は、人が巣箱の管理などをしないとダメなようです。早春にはニホンミツバチが大部分なのはそのためでしょう。



早春に咲くオオイヌノフグリ(上)と、蜜や花粉を求めて訪れるセイヨウミツバチ(中左)、ニホンミツバチ(中右)、ホソヒラタアブ(下左)、コマバムツボシヒラタアブ(下中)、ハナバエの仲間(下右)。



ヤナギの花を訪れ、蜜を吸ったり花粉を食べるニホンミツバチ。顔も花粉まみれ。花粉かごも花粉でいっぱい。

ヤナギにもニホンミツバチが、ぶんぶんとうるさいくらいに集まっていました。一番後ろのあしのつけ根にある「花粉かご」には、ぱんぱんに花粉がつまっています。顔も体も花粉にまみれていました。ヤナギもハチたちに蜜や花粉をもって行かれるだけでなく、ハチが花粉をつけて他の花に移動してくれることで、^{じゅふん}受粉をしてもらっているのです。お互いに、いないと困る存在なのですね。



翅を閉じられると見失ってしまいそうなキタテハ。

左は、キタテハ。タテハチョウの仲間^{はね}は翅を閉じると落ち葉や枯れ草^{じゅひ}、樹皮にまぎれて見失ってしまいます。まだ少し、動きが鈍い^{にぶい}ですね。閉じた翅の横に見える白い「c」マークが学名^{がくめい}の由来^{ゆらい}となっています。

ナナホシテントウも^{ひざし}陽ざしに誘われて^{さそわれ}出てきましたが、やはりまだのそのそしています。そして花に集まる虫たちを捕まえにクモも出てきました。



【理科
支援員
宮内】



暖かい陽ざしにさそわれ出てきたナナホシテントウ(左)と、花に来る虫を捕えに来たウツキモリグモ(中)。右はおまけですが、幼虫で集団越冬していたヨコヅナサシガメで、ハラビロカマキリの卵のうを食べていた。